

走

小兒行也と見えたり、又傍人たつとくと云も、多趨の義なるにや、

〔類聚名義抄走〕走 子厚 走正 走走二通 走若通 走オモムクハシロ 和ソウユク 趨勅教反 趨俗造字 趨渠

音 趨正 趨ハシル 趨運音 今七踰反 趨正 趨今 趨正音ク 趨俗去字 趨勿

反ハシル 〔同〕走ハシル 趨音ハシル 〔同〕大奔音ハシル

〔干祿字書上聲〕走走上中、通、下正、

〔運歩色葉集葉〕走 〔同〕和趨

〔釋名三〕疾行曰趨趨赴也、赴所至也、

疾趨曰走、走奏也、促有所奏至也、

奔變也、有急變奔赴之也、

〔日本靈異記中〕佛銅像盜人所捕示靈表顯盜人緣第廿二略○中

趨走也

〔倭訓栞前編二十四〕はしる 走をいふ、しる反すなれば、はすに同じ、歌にも常にもさいへるを、書を讀にはわしるといひ習へり、新撰字鏡に逆をはしりかるとよめり、日光にて行事をわしると

いへり、

〔倭訓栞中編二十九〕わしる。走をよめり、はしるともいへり、靈異記に趨もよめり、

〔倭訓栞中編四〕かける 驅をいふは、かくるの俗語也、

〔皇都午睡三編上〕上方で買て來るを江戸にては買て來る、○中 走るを欠る、

〔枕草子五〕此車のさまをだに、人にかたらせてこそやまめとて、一條殿のもとにとめて、侍從殿

○藤原やおはします、郭公のこゑき、ていまなんかへり侍るといはせたる、つかひた、今まい

る、あがきみくとなんのたまへる、さぶらひにまひろげて、さしぬきたてまつりつといふに、ま